

達第八十二號

明治三十六年達第百三十四號別表中支出收入區分ノ欄「鎮海灣海軍用地貸下料收入」ヲ
「在韓國海軍用地ヨリ生スル收入」ニ改メ備考「二」ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

三 鎮海防備隊司令官ハ海軍用地ヨリ生スル收入ニ關シ部下職員ニ分任收入官吏ヲ命
スルコトヲ得

明治四十一年七月三日

海軍大臣 男爵齋藤 實

正 誤

本年達第七十八號及達第八十號中「ヲ廢ス」ハ孰レモ「明治四十一年九月三十日限り之
ヲ廢ス」ノ誤

海 軍 省 副 官

八十七

海 軍



3177

大正三年達達
海軍監獄長
以本令廢止



達第八十三號

海軍監獄長服裝規則左ノ通定ム

明治四十一年七月六日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

海軍監獄長服裝規則

第一條 海軍監獄長ノ服裝ハ適用シ得ル限リ海軍服裝規則ニ準據ス但シ正服禮服ハ各其ノ相當服、職務服ハ通常禮服軍服用ノ場合ニ準シ各規定シアル條項ヲ適用スルモノトス

第二條 宮中ノ儀式禮典等ニ際シ文官ノ服裝ニ關シ宮内省ヨリ特ニ指定アルニ方リ海軍服裝規則ト抵觸スルトキハ宮内省ノ指定ニ從フヘシ

附 則

本達ハ海軍監獄長服制施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

八十八

海 軍

3178



達第八十四號

海軍外國旅費規則中左ノ通改正ス

明治四十一年七月九日

海軍大臣 男爵齋藤 實

第一條 海軍軍人軍屬公務ニ依リ外國(清國、韓國及樺太ヲ除ク以テ)ニ旅行スルトキハ本則ニ依リ旅費ヲ支給ス軍人軍屬以外ノ者ニシテ本則中特ニ定メタル者ノ旅費亦同シ但シ本則ニ規定ナキモノハ總テ外國旅費規則ニ依ル

第四條ノ二 海軍軍人軍屬以外ノ者ヲ旅行セシムル場合ニ於テハ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス但シ海軍ニ使役スル職工人夫ノ旅費ハ別ニ定ムル所ニ依ル

一 海軍部外ノ官吏若ハ公吏以下ニ在リテハ該官衙公務ニ於テ定ムル所ノ額

二 從六位以上、勳六等以上ノ者又ハ教務其ノ他ヲ囑託シ奏任待遇トスル者ニ在リテ

ハ第二表三等ノ定額

三 正七位以下、勳七等以下ノ者又ハ教務其ノ他ヲ囑託シ判任待遇トスル者ニ在リテ

八十九

海軍

ハ第二表五等ノ定額

四 無位無勳ノ者又ハ教務其ノ他ヲ囑託シ前各號ニ當ラサル者ニ在リテハ第二表七等ノ定額

無位無勳ノ者ニシテ旅費等級ノ變更ヲ要スル者アルトキハ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ
傭外國人ヲ旅行セシムル場合ニ於テハ別表ニ依リ身分取扱勳任ニ准スル者ニ在リテハ二等、奏任ニ准スル者ニ在リテハ三等、判任ニ准スル者ニ在リテハ五等、傭人代用トシテ使役スル者ニ在リテハ七等ノ定額ヲ支給ス

第五條 第一項但書中「清、韓及」及第一號中「艦船艇所在地外ノ地ニ」ヲ削ル

別表中「諸外國」ノ三字及支那朝鮮ノ欄ヲ削リ「士官」ノ下ニ(兵曹長及相當官ヲ除ク)、「候補生」ノ前ニ

「兵曹長及相當官」ヲ加フ

附 則

本達ハ明治四十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

達第八十五號

明治三十一年達第四十九號及同二十九年達第八十九號ハ之ヲ廢止ス



本達ハ明治四十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年七月九日

海軍大臣 男爵齋藤 實

達第八十六號

職工人夫給與規則中左ノ逕改正ス

明治四十一年七月九日

海軍大臣 男爵齋藤 實

第十五條ノ二 職工人夫ヲ旅行セシムル場合ニ於ケル旅費ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ支給ス

- 一 内國ニ在リテハ海軍内國旅費規則ニ準據シ第七表表面内ハ同表八等ノ定額、表面外ハ第五表八等ノ定額但シ別表第八及第九ノ場合ニ於テハ旅費支給ノ限ニ在ラス

九十

海軍

二 外國

(清國、韓國及
樺太ヲ除ク)

ニ在リテハ海軍外國旅費規則ニ準據シ汽車料及船舶料ハ客室三等ノ定額トシ客舍料、食卓料、日當及支度料ハ七等ノ定額以内ニ於テ旅行ノ性質ニ應シ海軍大臣ノ認許ヲ受ケ之ヲ定ム

海軍内國旅費規則第七表ノ表面外ニ屬スル北海道ノ旅行ニ限り第五表ノ定額ヲ以テ支辨シ難シト認ムル場合ニ於テハ海軍大臣ノ認許ヲ受ケ増額スルコトヲ得

附 則

本達ハ明治四十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

3180



八三三斗七等以七十
分附則ヲ以テ本
條止

達第八十七號

關東州派遣職工給與規則中左ノ通改正ス

明治四十一年七月九日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

「關東州派遣職工給與規則」ヲ「清韓樺太派遣職工人夫給與規則」ニ改ム

第一條 「職工ニシテ關東州ニ」ヲ「職工人夫ニシテ清國、韓國及樺太」ニ改ム

第二條中「關東州ニ派遣セラル、」ヲ削ル

第三條中「關東州ニ」ヲ削ル

第四條第一項中「關東州ニ」ヲ削リ第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ北緯三十七度以北ニ派遣セラル、者ノ外ハ此ノ限ニ在ラス

第四條ノ二中「關東州ニ」ヲ削ル

第五條 職工人夫ヲ清國、韓國、樺太ニ旅行セシメ又ハ之ヨリ旅行セシムルトキ並清國、韓

國、樺太内及其ノ各地間ヲ旅行セシムルトキハ海軍、清韓樺太旅費規則ニ準據シ第三表八

九十一
海 軍

等ノ定額ヲ支給ス但シ職工人夫給與規則別表中第八及第九ニ當ルトキ並服業地ニ在ル

間ハ旅費支給ノ限ニ在ラス

第五條ノ二中「轉備」ノ下ニ「シ又ハ之ヨリ内地工廠ニ轉備」ヲ加フ

第六條削除

附 則

本達ハ明治四十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

達第八十八號

海軍下士卒身上取扱規則第五條第二項中「之ヲ取締ヲ爲サシメ九人以上ナルトキハ隊伍旅行ヲ命スルモノトス」ヲ「之ヲ取締ヲ爲サシムヘシ」ニ改ム

附 則

本達ハ明治四十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年七月九日

海軍大臣 男爵齋藤 實

達第八十九號

明治三十七年達第五十三號患者依托治療及收療ニ關スル件中左ノ通改正ス

明治四十一年七月九日

海軍大臣 男爵齋藤 實

第一條中「及職工人夫」ヲ削ル

九十二

海 軍

第一條ノ二

公務ニ原因シ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル職工人夫ハ軍醫官軍醫官ノ在ラザル地方ニ在リテハ

ハ所在ノ診斷ニ依リ海軍病院要港部病室ヲ含ム本條中海軍病院トアルモノ皆同シ所在地ヲ距ル陸路十里、汽軍路七十哩、

海路七十海里以内ノ地ニ在リテハ海軍病院ニ收療シ其ノ以外ノ地ニ在リテハ所在ノ病院若ハ醫師ニ依托シテ治療セシムルモノトス但シ職工人夫女ナルトキハ該里程以内ノ

地ニ在リテモ所在ノ病院若ハ醫師ニ依托シテ治療セシムルコトヲ得

海軍病院所在地外ニ在リテ前條第一項第二號ノ場合並重症又ハ傳染病ノ場合ニ於テハ

前項ノ里程ニ拘ラス所在ノ病院又ハ醫師ニ依托シテ治療セシムルコトヲ得

外國ニ在リテハ第一項里程以外ノ地ニ於テモ適宜海軍病院ニ收療スルコトヲ得

第二條中「所在鎮守府司令長官」ノ下ニ「要港部病室ニ收療中ノ者」ヲ加フ

ニ在リテハ同部司令官

達第九十號

海軍治罪法施行規則中左ノ通改正シ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年七月十三日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

第五十四條第二項中「並ニ懲治場ニ留置スル」及第三項中「シ主刑ヲ免シテ止テ監視ニ付スルノ宣告アリタルトキハ地方警察署ニ送致」ヲ削ル

第五十五條 受刑者海軍ノ監獄ニ於テ刑ノ執行ヲ爲ス可キモノニ非サルトキハ其ノ監獄ハ裁判宣告書謄本ヲ添ヘ其執行ヲ爲ス可キ監獄ニ之ヲ送致ス可シ

第六十條 勞役場ニ留置ス可キ者ハ主理裁判宣告書ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ勞役場ニ交付ス可シ

勞役場ニ留置ス可キ者遠隔ノ地ニ在ルトキハ主理ハ裁判宣告書謄本ヲ其所在地ノ軍法會議ノ主理若クハ所屬長ニ送致シ留置處分ノ執行ヲ囑託ス可シ受託者其執行ヲ爲シタルトキハ囑託軍法會議ノ主理ニ其旨ヲ通報ス可シ

九十三 海 軍

第六十一條中「罰金科料ヲ禁錮拘留ニ換ヘ若クハ放免」ヲ「勞役場留置ニ」改ム

第六十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六十一條ノ二 大祭祀日、靖國神社大祭日、一月一日及ヒ十二月三十一日ニハ死刑ヲ執行セス

第六十九條中「犯罪ノ用ニ供シタル物件犯罪ニ因テ得タル物件ハ本案ノ裁判宣告ヲ爲スマテニ所有主ヲ發見セサルトキハ其本案ノ裁判ト共ニ沒收ノ宣告ヲ爲ス可シト雖モ其物件ハ」ヲ「沒收シタル物件ニシテ犯人ノ所有ニ屬セサルモノハ」ニ改ム

第七十一條 削除

第七十二條第一項中「主理」ヲ「受領者」ニ改メ第二項ヲ削ル

第七十三條 削除

第七十五條中「犯罪ノ用ニ供シタル物件犯罪ニ因テ得タル物件ニシテ沒收ニ係ルモノ又ハ」ヲ「刑法第十九條第一項ニ記載シタルモノニシテ沒收ス可キモノ及ヒ」ニ改ム

達第九十一號

明治三十一年達第九十三號中「及舟夫長」ヲ「舟夫長及水松番人」ニ改正ス

明治四十一年七月十三日

海軍大臣 男爵 齋藤 實

九十四

海軍

3184

達第九十二號

明治十六年丙第五十六號ハ之ヲ廢止ス

明治四十一年七月二十三日

海軍大臣 男 爵 齋 藤

實

達第九十二號參照

明治十六年丙第五十六號ハ新聞紙購置ニ關スル件ナリ

九十五

海

軍

3185

達第九十三號

關東州在勤者海軍給與令施行細則中ニ左ノ一條ヲ追加ス

明治四十一年七月二十五日

海軍大臣 男 爵 齋 藤

實

第十條 關東州在勤者海軍給與令第十七條ノ消耗品ハ暖房用燃料ニ限リ宿舍ヲ貸與シタル者ニ之ヲ給與ス

正 誤

本年達第八十四號十一、十三、十四行目第二、八別、同第八十七號四行目遺ハ遺ノ誤

海 軍 省 副 官

九六

海 軍

3186

昭和六年
九月二十三日
号改正

改正

遂第九十四號

海軍軍屬タル文官從軍服用者ノ範圍並平時從軍服用ニ關スル規定當分ノ内左ノ通定

明治四十一年七月二十七日

海軍大臣 男 爵 齋 藤 實

- 一 海軍軍屬ニシテ從軍服ヲ着用スヘキ者ハ艦隊、防備隊、臺灣、樺太及關東州在勤ノ文官、同待遇者並軍港要港所在地ノ官廳ニ勤務スル主理トス但シ判任官及同待遇者ハ所屬長官ノ許可ヲ得テ之ヲ着用セサルモ妨ナシ
- 前項ノ文官及同待遇者ハ平時ニ於テ亦從軍服ヲ着用スルコトヲ得
- 二 平時ニ於ケル從軍服ノ着用ハ海軍服裝規則ニ於テ通常禮服軍服用ノ場合ニ限ル此ノ場合ニ於テハ短劍ヲ佩用スルコトヲ得

九十七
海軍

3187

達第九十五號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

明治四十一年七月二十八日

海軍大臣 男爵齋藤 實

第五條ニ左ノ一項ヲ加フ

卒陸軍懲治隊入隊ノトキハ退團ノ翌日ヨリ、退隊ノトキハ其ノ前日迄該俸給ヲ支給ス

第四十三條ノ二 給與令第三十五條第二項ニ依リ陸軍懲治隊入隊中加俸ヲ停止スルハ退

團ノ翌日ヨリ退隊ノ前日迄トス

第八十四條ニ左ノ一項ヲ加フ

陸軍懲治隊入隊中ノ卒ニハ給與令第十三表被服物品ノ内毛布、蒲團蓑及食器ヲ交付セ

ス

第八十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

陸軍懲治隊入隊中ノ卒ニハ臂章ノ交換ヲ停止ス

九十八

海 一軍

第十二表中備考欄ノ末ニ左ノ一號ヲ加フ

本表ニ於テ夏期ト稱スルハ六月一日ヨリ九月末日迄トス

3188

達第九十六號

四季及小演習用消耗兵器年額表中魚形水雷衝突頭部ノ項ヲ左ノ通改正ス

明治四十一年七月二十九日

海軍大臣 男 爵 齋 藤

實

種 類	數		量		記 事
	(供用每一門)	每	每	每	
魚形水雷衝突頭部		艦	水雷艇	艇	各艦艇ニ供用ノ水雷衝突頭部ニ適合スルモノヲ供給ス

達第九十七號

艦艇類別等級別表中通報艦ノ欄内「淀」ノ次ニ「最上」ヲ加フ

明治四十一年七月二十九日

海軍大臣 男 爵 齋 藤

實

九十九

海 軍

3189

達第九十八號

佐世保鎮守府在籍

軍 經 松 島

右帝國軍艦籍ヨリ除カル

明治四十一年七月三十一日

海軍大臣 男爵齋藤 實

達第九十九號

艦艇類別等級別表中「松島」ヲ削ル

明治四十一年七月三十一日

海軍大臣 男爵齋藤 實

百
海
軍

3190